佐土原ＲＣ
週報

国際ロータリー第２７３０地区
佐土原ロータリークラブ
例会日　毎週金曜日　12：30～13：30
例会場　ホテル神宮寺　0985-73-0015

まことの幸福は人助けから
Real Happiness is Helping Others

1993．3．12（金）第260回例会
1．点　鐘
2．ロータリーソング「奉仕の理想」
3．「四つのテスト」唱和
4．会長の時間
5．幹事報告
6．各委員会報告
7．3月セレモニー（前回未了）
8．会員卓話　　児玉武文君
9．点　鐘

第２５９回例会記録
（1993．3．5）

会長の時間　代理副会長　児玉武文

皆さん今日は、本日は第２５９回例会です。

岩切会長が急用のため中座されましたので、私が代理を務めさせていただきます。

実は、先日のＩＭについて岩切会長から詳しくご説明がある予定でしたが、来週にお願いしたいと思います。

さて、昨夜ＮＨＫテレビで、韓国鉄道改札口の混雑状況が報道されておりましたが、交通が発達するに伴っての施設設備の整備が遅れ、わが国と同様な道を辿っていることを感じた次第です。

今朝の新聞では、埼玉県浦和市の高校教師が長男の家庭内暴力に耐えかねて、ついに長男を殺害するに至りましたが、それに対する浦和地裁の、執行猶予の判決が載っていました。

社会が進化し、発展すれば、一体どのようなことが派生するのか、と私はかねてから考えていたのですが、たまたま３月２日の日経新聞のコラム“春秋”に、示唆に富んだ記述がありましたのでご紹介いたします。

『４月は人事異動の月で、サラリーマンにとっては哀歓こもごもの月である。転勤になれば、戦前は家族揃って新動務地に転居したのであったが、現今は、こどもが小さい場合を除いて、単身赴任が多くなっている。その背景としては住宅難、共働き、こどもの受験戦争などが挙げられる。しかし、わが国の現代社会に歪みや病理があることを見逃してはならない。

本来なら社会が解決すべき問題を、個人に被せているとも言える。父親思いの時代ではないかも知れないが、家族がばらばらで生活することは、やはり正常な姿ではない。』

というような内容でした。

社会が解決しなければならないことを、個人個人が解決しなければならない、という指摘に私は大変共鳴したのであります。

最近、日本の経済が低迷しているため、春秋に富む青少年の就職内定を取り消す企業が増えつつあります。企業にとってはやむをえない措置かと思うのですが、前途有為な青少年に犠牲を強いることは、やはり現在社会の歪みであると考えます。幸い、企業側にも自粛の声が出ているようで、来春からはこのような事態が解消されることを期待しています。

幹事報告　　藤堂孝一

1．例会変更通知
　＊都城中央ＲＣ　3月11日　19：00
　　都城大丸
2．世界身体障害芸術家協会より１冊の写真集

『Many Faces Isaw』（私が見た多くの顔）の販売キャンペーンの支援依頼が来ております。売り上げからの収益は全て身障者の学習と生活のために使われます。

一冊4，500円です。皆さんのご協力をよろしくお願い申し上げます。

3．2月28日のIMの概要をご報告します。

当日の出席者は、岩切会長・鈴木国際奉仕委員長と私の3名でした。 第1分科会［社会奉仕］と第2分科会［拡大増強］に分かれて協議をしました。

［社会奉仕］では、決議23－34及び92－286についての説明並びに討議があり、［拡大増強］では、正に佐土原クラブが当面しているような問題について協議がありました。宮崎北RC長友会長、宮崎南RC松田会長、串間RC内野会長、日南中央RC河野会長及び佐土原RC岩切会長がパネラーとして、クラブの現状などを話されましたが、岩切会長の話が終わった時には盛大な拍手が起こりました。本音の発言が多く、有意義な会であったと思います。

4．来週は夜間例会（19：00）です。

出席報告　　委員長　神宮寺　利　夫

会員数	16名
欠席者数	3名
HC出席者数	13名
出席率	81．25%
欠席者名	斉藤・郡司・井下

ビジター

宮崎北RC　李　恒福君
西都RC　河野謙二君

ビジター特別卓話　(1)
宮崎北RC　李　恒福君

突然のご指名で、卓話というべきほどの準備もしておりませんが、そのため、むしろ本音のことが話せるかとも考えますので、思いつくままに、あれこれの分野からお話しをさせていただきます。

ロータリーは奉仕団体であるといっても、一所懸命になると、自分自身が飯が喰えなくなる、ロータリーばかりに専念していると金儲けはできない、と言う人がおります。

しかし、私はそうではないと考えるのです。

他の動物と違って、人間社会の天性で、一つの文化ともいいますか、人間の英知によって創出された崇高な精神的なものがロータリーであると思います。

いや動物も、例えばニワトリやネズミやライオンやトラでも、自分の子どもには一所懸命えさをやるではないか、外敵に対しては親が犠牲になってでも子どもを守るではないか、あれは奉仕ではないのか、と言う人もいるかも知れません。

私は、それは奉仕とは考えたくないのです。広い意味では奉仕かもわかりませんが、本質的には種属保存の本能による行動の域を出ないと思うのです。人間も同様で、親が子どもを大学に入れ、あるいは子どもが事業を始める時に資金援助をするのを、誰も奉仕だ、犠牲だとは思っていないでしょう。これも本能意識によるものです。

私達のロータリーの奉仕の理想とは、そういったものではないのです。

そういう一線を超えた、相手に尽くす、相手に捧げるという崇高な理念であります。

私は基本的にロータリーをこのように認識しています。

（以下次号に続きます）